



与那国町



“THE WEST” YONAGUNI ISLAND
<https://welcome-yonaguni.jp>



photo: Minoru Muramatsu

photo: Kihachiro Aratake



島色無限大
Island Colors Infinite Yonaguni

日本の最西端
与那国島

“THE WEST” YONAGUNI ISLAND

物語を生きる島へ。



“THE WEST”——物語を生きる島へ。

自然と生きものたちが共棲し、“絶海の孤島”であるがゆえに独自の交流文化を織り重ねてきた、伝説多き国境の島。

ひと時もとどまることなく、鮮烈に景色を変化させ続ける最西の地をキャンバスに、あなたはどんな物語をたどるだろう。

見えるもの、見えざるもの、聞こえる音、感じる気配——。唯一無二を生きるこの島の今日を、あなたはどの語るだろう。

与那国島

日本最西端の島。沖縄本島から南西へ509km、石垣島から127km、東京から約1900kmに位置し、隣接する台湾とは111kmの距離。周囲27.49km、面積28.95km²。3つの集落に約1700人が暮らす小さな島。亜熱帯気候で年間を通して暖かく、年平均気温は23.8℃。独自の生態系が生まれ、多様な生物が生息する。島の周囲の大半が断崖絶壁で、起伏が激しい独特の地形地質資源を有する。



YONAGUNI ISLAND

Japan's westernmost island. Located 509 km southwest of the Okinawan main island, 127 km from Ishigaki island and circa 1,900 km away from Tokyo, the distance to nearby Taiwan is 111 km. A 27 km circumference and a surface of 29 km². Around 1,700 people live in the three villages scattered around the island. With a subtropical climate, it is warm throughout the year, having an annual average temperature of 23.8 °C / 74.8 °F. Fostering a distinct eco-system, a variety of flora and fauna exists on the island. While the majority of the island's circumference consists of steep cliffs, it hosts topographical and geological resources unique to the rough terrain.

潮の満ち引きも、月の満ち欠けも、夜空も、風も、

毎日がこんなにも特別であることを教えてくれる。

photo: Kihachiro Aratake

物語のトビラを開ける、4つの入口

好奇心と想像力がカギ。さあ、あなたの旅を始めよう。



日本で最後に夕陽が沈む島は
世界の入口であることを知る。

台湾からわずか111km。年に数回、晴れた日には台湾の山並みを肉眼で見られる与那国島は、かつて台湾と同一時間を刻み、日本の他の地域とは1時間の時差があったといいます。日本の最西端で国境の島。こうした立地は、台湾との深い親交をはじめ、長い歴史の中で必然的に世界と独自の交流を重ねてきました。風吹く、航海の地が育んだ独特の世界観は、島のいたる所で垣間見ることができます。

A glimpse into this unique spot moulded by winds, seas and proximity to Taiwan. The island with Japan's last sunset, an entrance to the world.



風

島を取り巻く、
もう一つの秘境へ。

夜、まるで宇宙空間に紛れ込んだかのように、島全体は満天の星空に包まれます。パノラマに広がる天の川を見上げていると、時空の旅に出たような感覚を覚えるかもしれません。こうした島の魅惑は、黒潮に洗われ瑠璃色に輝く海の中にも存在しています。島の南岸沖の海中には「海底遺跡」と呼ばれ、神秘的な景観が広がる場所があります。いつ、誰が、なぜ海底に一。調査が進む中、世界から関心が高まっています。

In the night sky, a magical milky way. In ocean deep, submarine ruins concealed in secrets. A land of mystery in distant seas.



photo:Kihachiro Aratake

海



時を超え、暮らしの中で
生き続ける伝説の世界。

「与那国の情けは、言い交した言葉が情けです。命ある間は便りいたしましょう」(ドゥナンズンカニ*)。島を歩き、その暮らしと文化に触れる中で、多くの伝説や唄に出会うことでしょう。それらには絶海の孤島であったがゆえの事柄や今も大切にされる島の心のあり方が深く刻まれています。また、伝承される民俗芸能は祭事の唄や踊りとして、南方、中国、琉球王朝時代の特異な文化を昔のままの姿で残しています。

Folklore songs and legends with influences from southern seas, China and the Ryukyu Kingdom. Timeless traditions lingering on in everyday life.

※与那国を代表する民謡

生きものたちが共棲するパラダイス。
群生する渦へ、あなたも。

朝、一斉に太陽を求めて移動し、夕方になると1日の終わりを惜しむかのように夕陽にたたずむ馬の群れ。昼間は牛と牧草を分け合い気ままに過ごし、人が来ても気にせず、道も全然譲らない。ただ、優しい目で私たちを見つめ返してくる馬たちのペースに、いつしか心地よさを感じるようになるでしょう。この島での生活は「共棲」がキーワード。違いを認め、共に生きるこの意味を、直感的に感じさせてくれます。

A paradise of coexistence where native Yonaguni horses peacefully spend their days on the green hills. For a moment, be drawn into the herd.



環

唄

"The west"

ISLAND MAP

与那国島は北東-南西、北西-南東、東-西の3方向に走る断層によって島の周囲が切れ、断崖絶壁が海岸線を囲んでいます。八重山諸島のどの島とも異なるユニークで力強い景観を舞台に、独自の文化、生態系が育まれてきました。

久部良フリシ

琉球石灰岩と砂岩が織りなす独特の景観で、ここから広く海を見渡すことができます。



photo: Minoru Muramatsu

久部良バリ

深さ7m、幅3mの巨大な岩の裂け目。人头税時代に人減らしの目的で妊婦に飛び越えさせたという悲話が残る場所。



久部良漁港

日本最西端の漁港。近海でのカジキの漁獲高日本一。かつて貿易の港町として繁栄し、映画館や料亭なども立ち並んでいた。



日本最西端の碑
西崎展望台

西崎(いりざき)

国境の海を望むことができる岬で、日本で最後に夕陽が沈む。年に数回、天気の良い日には台湾の島影を見ることができる。



南牧場線

絶景が広がるドライブロード。馬たちの車間距離は十分に。

日本最西端の碑

台湾と与那国との心の架け橋を願いつくられた碑。「日本国最西端之地」と刻まれた碑の石材は台湾産で、その文字も台湾で彫られた。



ダンス浜

西向きのビーチで、午前中の順光を浴びた白い砂浜と青い海、夕刻の赤色のグラデーションと、時間帯によって与那国島の多彩な色を感じることができる。



ティンダバナ

与那国島を最初に統治した16世紀初期の女酋長サンアイ・イソバのすみかとされるなど、伝説の地。



台湾 111km

東京 約1900km
石垣島 127km



東崎(あがりざき)灯台・東牧場



うぶたぬはまてい(通称 六畳ビーチ)



東崎展望台

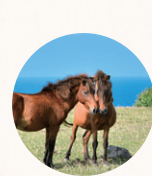


立神岩(たちがみいわ)

海底景観ポイント
神秘的な光景はダイビングの他、半潜水型観光船からも眺めることができる。



Dr.コトー診療所ロケ地
ドラマ・映画「Dr.コトー診療所」の舞台となった志木那島診療所のロケ地。目の前の比川浜は満月の夜、月光に照らし出された海が美しく輝く。



ヨナグニ馬
日本に8種残る在来馬の1種。与那国島では50年ほど前まで農耕馬として活躍していた。小柄で温厚な性格。1969年に町の天然記念物に指定され、現在約130頭が島内で飼育されている。

※崖の付近や岩の上は滑りやすく風が強いので十分に注意してください。

与那国島の四季だより

方言で春から秋までを「バガナチ(若夏)」「カディヌナチ(風の夏)」「アキヌナチ(秋の夏)」と表現するように、年平均気温23.8℃の与那国島は、年間の気温差も少ない温暖な島ですが、植物や生きものたちの知らせによって、様々な場面で季節の移ろいを感じることができます。人々の暮らしは、古くからこうした自然のリズムに合わせて営まれてきました。



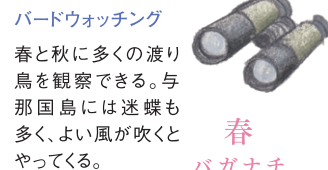
テッポウユリ(町の花)
海岸近くの岩場から山裾の原野にかけて見られる。



ヨナグニサン
方言名でアヤマハビル。世界最大級の美しい蛾で、最大で24cm。3月下旬～4月上旬、6月中旬、8月、10月が羽化シーズン。



ドゥナンスカンニ大会
与那国島を代表する民謡「ドゥナンスカンニ」(与那国シヨンカネー)を正しく継承・発展させることを目的に開催される。



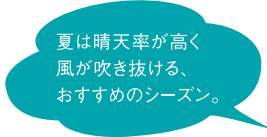
バードウォッチング
春と秋に多くの渡り鳥を観察できる。与那国島には迷蝶も多く、よい風が吹くとやってくる。



春
バガナチ



ハーリー(海神祭)
(旧暦5月4日)
海上平穏、豊漁の祈願を行う祭り。久部良をはじめ、島内で競漕が行われる。



夏は晴天率が高く風が吹き抜ける、おすすめのシーズン。



サルズベリ(町の花木)
中国原産の亜高木で4mほどの高さになる。開花時期は6月頃から秋にかけて。「百日紅」の別名もあり、開花期が長期間となる。



台風シーズン(7~9月)

日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会
※7月第1金・土・日曜日開催



夏
カディヌナチ



日本最西端与那国島一周マラソン大会
※11月第2土曜日開催

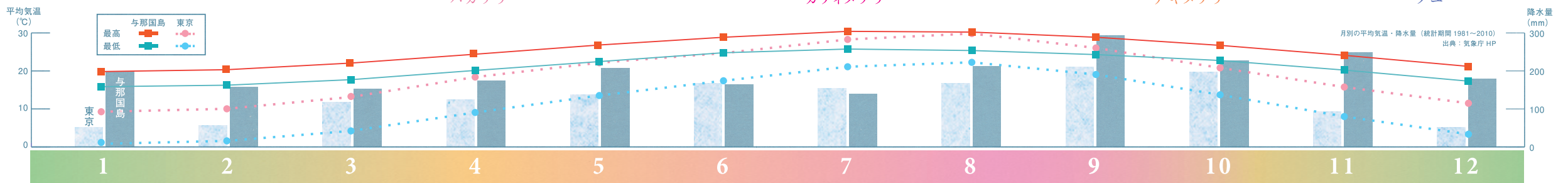
サウキビの花
サウキビの花がいつせいに咲くと畑が白銀に染まる。この後、収穫が始まる。



ハンマーヘッドシャーク到来
12月~5月頃が群れを見ることのできるベストシーズン。



冬
フユ



イベント・祭事

島の祭事は作物の種まきから収穫までを一つのサイクルとし、節目ごとに大小30にも及びます(一部のみ紹介)。

島の祭事は神聖なものです。
祭事ではマナーを守りましょう。

-旧暦2月-
●種取(タナドゥリ)祭

種取(タナドゥリ)祭
家庭ではイハティと呼ばれる、稲叢(いなむら)をかたどった大きな握り飯を作り、苗代に献饌。イニガダニアユが歌われる。

-旧暦4月-
●ツァバムヌン・フームヌン

ツァバムヌン
田草取り時期に行う虫払いの祭事。
フームヌン
稲穂が出そろった時期、かんばつや大風がないよう、島民安泰・繁栄、豊作と共に十日越しの夜雨が降って豊年と豊漁の年が招来するよう祈願する。

-旧暦6月-
●比川豊年祭
●久部良豊年祭
●祖納豊年祭

豊年祭
旧暦6月以降の丙午。その年の豊年の感謝、米年の豊年の祈願を行う。当日は祈願の後、旗頭を参集し、各集落が舞踊や棒踊りを奉納する。東西に分かれて大綱引きが行われる。



●旧盆

シティ祭
悪魔祓いの祈願祭。ンバヌハ(和名:カニクサ)のつるを家の柱や井戸、庭の木などに巻きつけて厄除けをする。夜は公民館ごとに獅子舞を演じ厄払いを行う。各家庭ではご馳走を食べ、新しい年をとるとされていた。

-旧暦8・9月-
●シティ祭

クブラマチリ
異国人・大国人退散の祈願。昔、島に外敵が頻りに襲来し島の食物や家畜などを奪っていくのを防ぐため、この島が巨人の住む島だということを示す意味合いで海に大きな草履を流した。それによって外敵が来襲しなくなったという言い伝えをもとに往時のクブラマチリでは大草履を作って海に流していた。

-旧暦10月-
●クブラマチリ
(異国人退散、外敵退散祈願)
●ウラマチリ
(牛馬繁殖、家畜繁殖祈願)
●ンディマチリ
(婿取縁取、子孫繁栄祈願)
●金比羅祭
(航海安全、豊漁祈願)

-旧暦11月-
●ンマナガマチリ
(五穀豊稔祈願)
●ンダンマチリ
(航海安全祈願)
●アンタドゥミ

アンタドゥミ
ハイナグの霊石で神分かれ(カンバガリ)、ティラクンダで主分かれ(ヌチバガリ)を行う。ここで司たちは神衣を脱ぎ、人間に戻る。25日間にわたるマチリの全日程が終了する。

★与那国の民俗芸能は、南方、中国、琉球王朝の文化を継承し、催事における歌や踊りはその古態を今にとどめていることから、1985年(昭和60年)に国の重要無形民俗文化財に指定されています。
※様々な理由により、イベント・祭事が延期もしくは中止・開催されない場合もありますので、事前にご確認をお願いします。

人と人とをむすぶ 想いの手仕事

島の恵みから生み出されるものづくりには、その一つひとつに島の暮らしの物語と感謝の心が宿っています。
「誰かが誰かのためにつくる」。島の手仕事は、そんな人と人とのつながりを教えてくれます。

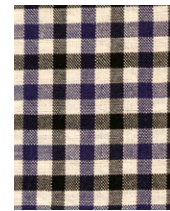


島の彩を映し出す与那国織

与那国島の織物は、主に花織、ドゥッタティ、シダティ、カガンヌブーの4つに分類されます。約500年の古きより、その独創性は磨かれてきました。美しい彩りには島内に生育する植物たちが活かされています。ガジュマルやフクギ、シャリンバイ、仏桑花(ハイビスカス)といった植物の恵みは色彩となり、布に映し出されているのです。こうした島の手仕事は、今も変わらず豊かで美しい島であることを誇りに受け継がれています。



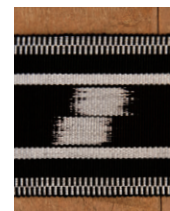
与那国花織
琉球王朝のあった首里の影響を受け、王府への貢納品として織り継がれてきた。幾何学模様が特徴。紋柄にはダチン花(八つ花)、イチチン花(五つ花)、ドゥッチン花(四つ花)がある。



与那国ドゥッタティ
白と紺と黒の格子の綿麻織物。かつては日常着として男性はスミディ(黒色地)、女性はミディルディ(水色地)の縞柄を着用してきた。現在も豊年祭や島の祭事で使用される。



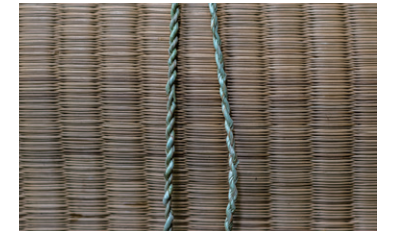
与那国シダティ
紋柄の数には五つ(いつまでも)、七つ(何事もなく平穩に)、九つ(9つの願いが叶えられるように)の想いが込められている。想いを寄せる人に言葉の代わりに、また旅出つ兄弟へ姉妹から航海安全のお守りとして贈られた。



与那国カガンヌブー
「カガン」は鏡、「ブー」は紐の意で、主にドゥッタティの帯として使用。中央のミツダギは夫婦を表し、模様全体は男女の愛を唄っているといわれている。



水を汲むための道具「うぶる」



農作物などをしぼるのに利用されたクバのひも

クバからつくられる暮らしの道具

使い勝手がよく風土に合った暮らしの道具は、すぐそばにある植物から生まれ、生活の中で磨かれていきました。与那国島の町木であるクバ(和名:ピロウ)は島の材料の代表格。現在も島の生活や行事の様々なシーンで活用されています。「うぶる」(写真右中央)は水を汲むための道具。1枚のクバの葉から生み出されます。与那国島ではその他に、やまいとう(山の糸)というツル科の植物を使った民具もつくられています。



クバ笠
日よけ用の笠。ツバが広いものは畑用、狭いものは海用。与那国島のは笠のてっぺんにチャームのようなものがついているのが特徴。



やまいとう民具



クバもち

与那国島の恵みを味わう

大地と海のエネルギーがたっぷりつまった島の旨みをお楽しみください。



長命草(ボタンボウフウ)
1株食べると1日長生きするという言い伝えがあります。近年、与那国島の長命草から様々なコラボ商品が生まれています。



ハナダギ(花酒)
与那国島だけでつくられる60度の泡盛「ハナダギ(花酒)」をはじめ、島の気候や風土を映し出す芳醇な香りの島酒がそろっています。



黒糖
与那国産のさとうきびからつくられる純黒糖。八重山諸島の黒糖は、島ごとに風味が異なるといわれています。



黒潮源流塩
黒潮が流れる与那国島の海水からつくり出されるミネラル豊富な塩。約10日かけて塩水を煮出し、製塩されます。



カジキ
「漁場の中に島がある」といわれるほど豊かな漁場に恵まれ、特に黒潮で育ったカジキが有名。加工品もバリエーション豊富。

各商品は島内の販売所や空港などで購入できます。詳しくは与那国観光WEBをご覧ください▶<https://welcome-yonaguni.jp>

あなただけの物語を見つけに。

お気に入りの場所を見つけてのんびり過ごすもよし、好奇心たっぷりアクティブに過ごすもよし。
今回ご紹介する旅のプランはほんの一例。あなたなら、どんな島旅を計画しますか。



2泊3日の旅プラン例

《 Day 1 》

Morning



Start!

東京・名古屋・大阪・福岡を朝便出発で、お昼過ぎに与那国島に到着!

与那国ブルーに感動!

☑ドライブで絶景巡り

まずはレンタカーを借りてこの島をぐるり1周。めくるめく絶景と、島の物語に思いを馳せて……。



うぶたぬはまてい(通称 六畳ビーチ)

立ち寄り文化スポット

- DiDi 与那国交流館
- アヤマハビル館



Day

Evening



西崎 (いりざき)

☑日本で最後に沈む夕陽を見届ける

運がよければ台湾の島影を見られるかも。

宇宙空間に紛れ込んだよう……



ヤシガニに遭遇! ハサミに注意。



Night

☑スターウォッチング

肉眼でも天の川を見ることができるとる那国島。星空シャワーを全身に浴びて! まるで宇宙空間にいるような感覚はこの島ならではの。1月~6月は南十字星が見えることも。

《 Day 2 》

☑東シナ海を一望

早起きした朝は、祖納集落と紺碧の海を一望できる伝説の地、ティンダバナへ。



ティンダバナ

☑海遊び・馬遊び

海で馬と一緒に遊んだり、シュノーケルをしたり、海を見ながら読書したり。潮の満ち引きをチェックして計画を立てよう。



photo: 与那国馬風 (う) 牧場

OTHER PLANS

- ダイビング ●釣り
- 乗馬トレッキング etc...

☑集落を散策

集落内は、歩いて散策可能。集落間の移動は無料バス(P14)の利用も便利です。



古民家も残る町並み。島の人に話を聞いてみよう

日本最西端のポスト発見!



最西端の久部良集落と最西端探し! どれもこれも、ザ・ウエスト!

☑郷土料理と島酒をいただきます

近海でとれたカジキ料理を堪能しながら、島酒(泡盛)を飲み比べ!



《 Day 3 》

虫よけ対策を忘れずに!



☑早朝トレッキング

「自然歩道」は気軽に心地よい朝時間を楽しめる1時間弱のコース。途中で現れる「人面岩」もお見逃しなく。

海底の神秘へ!

☑海底クルーズへ

半潜水型観光船で「海底遺跡」と呼ばれる海底景観へ。



OTHER PLANS



島の手仕事を訪ねてみよう

Good bye!



同日に乗継便で東京へ戻ることも可能ですが、石垣島に立ち寄って、竹富島や西表島など他の離島への八重山諸島ホッピングもおすすめです!

マメ情報



☑集落の商店を利用しよう



与那国島にコンビニはありませんが、集落にある商店の店内には所狭しと日常品や地元のお土産などが並んでいます。

バリエーション豊富な練り唐辛子はお土産にもおすすめ。



かわいい休憩所も。



☑馬たちに出会ったら



テキサスゲート内では、たくさんの馬が暮らしています。時には道路をふさいでいることも。そんな時は焦らず、馬に道を譲りましょう。のんびり暮らす馬たちを観察しているうちに、彼らの気持ちが少しずつ分かるようになります。

牧場の出入口で見かける「テキサスゲート」は放牧されている馬や牛が逃げないための細工。自転車やバイクは車輪がハマリやすいので要注意。車も速度を落として通ろう。



旅の基本情報



八重山諸島の島々を眺めながら
(石垣空港-与那国空港路線)

与那国島への旅のスタイルは、バリエーション豊か。宿もホテルからゲストハウス、民宿まで個性豊かにそろっていますので好きな休日の過ごし方をお選びください。海が比較的穏やかな夏場は、フェリーでの船旅体験もおすすです。

与那国島まで

■飛行機 <琉球エアコミューター>

- 沖縄本島(那覇空港)⇄与那国島(与那国空港)
所要時間 約80分 那覇空港→与那国空港 1日2便、
与那国空港→那覇空港 1日1便
 - 石垣島(石垣空港)⇄与那国島(与那国空港)
所要時間 約30分 石垣空港→与那国空港 1日2~3便、
与那国空港→石垣空港 1日3~4日便
- <<琉球エアコミューター>>
TEL 0570-025-071 <https://www.churashima.net/rac/>

■フェリー <フェリーよなくに(福山海運)>

- 石垣島→与那国島
所要時間 約4時間
出港 毎週火・金曜
午前10時(週2便)
 - 与那国島→石垣島
所要時間 約4時間
出港 毎週水・土曜
午前10時(週2便)
- <<石垣港内>> TEL 0980-82-4962
<<久部良港内>> TEL 0980-87-2555

島内での交通

■レンタカー

- 台数が限られているため、事前予約がおすすめです。
- 最西端観光・SSKレンタカー TEL 0980-87-2441
 - 米浜レンタカー空港店 TEL 0980-87-2148
 - 与那国ホンダ TEL 0980-87-2376

■タクシー

- 台数が限られているため、事前予約がおすすめです。
- 最西端観光 TEL 0980-87-2441
- ※夜は利用不可

■レンタバイク・レンタサイクル

- 原付バイクや電動アシスト付き自転車のレンタルもあります。
- <https://welcome-yonaguni.jp/access/>

■与那国生活路線バス(無料)

- 与那国町が運営している生活路線バスはどなたでも無料で利用することが可能です。
- 1日9本(7時台~22時台) ●停留所17か所 ※2023年4月現在
- 時刻表 <https://welcome-yonaguni.jp/access/>

バスルートマップ



日本最西端到達の記念に!

空港観光案内所をはじめ、島内指定販売所にて最西端の碑がプリントされた「日本最西端の証」を発行しています。発行料は1枚500円。



方言を知ろう

- 与那国方言は地元では「ドゥナンムイ」と呼ばれています。方言の意味を知ると、島への理解がぐっと深まります。ぜひ、調べてみましょう。
- ふがらっさ……ありがとう ●わーりい……いらっしやい
 - がんどきわるな……お元気ですか ●どなん……与那国
 - か……風 ●あびゃん……きれい
 - どぐういわり……おやすみください

ATMは3か所!

与那国島のATMはJAおきなわと郵便局(2カ所)しかないので、ご注意ください。クレジットカードが使えないところも多いので、現金を用意しておきましょう。

与那国島の“自然”事情

与那国島では野外だけでなく、ホテルや民宿でもヤモリや様々な昆虫に遭遇することがあります。都会とは違う環境である島では自然なこと。気になる場合は虫よけ対策をするなどして、上手にお付き合いを。また、触れるとかぶれる植物もあるので気をつけましょう。

与那国島の観光情報は、与那国町観光協会へ。
沖縄県八重山郡与那国町与那国437-17
TEL 0980-87-2402

与那国観光WEB

<https://welcome-yonaguni.jp>

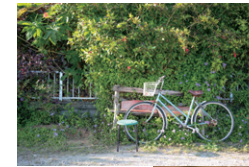


photo: Minoru Muramatsu



photo: Minoru Muramatsu



あそびに
来てね。

